



生物安全実践講習会

新たな感染症対策の教育の場

“実践コース B” のご案内



問合せ・連絡先：講習会運営事務局 清水雅俊 shimizu@fwf.or.jp

上記 2 団体では共同公益事業として感染症教育の場を立ち上げることになり、国立感染症研究所など公的研究機関出身の感染症専門家の協力・指導ならびに関係企業の賛同を得て 2018 年から制度設計やカリキュラム構築などの準備を進め、2020 年 2 月開催の基盤コースから実施が始まりました。

本講習会は、施設内感染対策を念頭に、法令を含めて病原体(病原微生物)とその取扱い、感染予防のための衛生管理、感染症発生後の危機管理などについて座学と実習を実施することを基本内容とし、以下の4コースを計画・実施して行きます。講師には各座学に的確な専門家を配し、また最新の知識・情報に関する特別講演をアレンジします。

1. 基盤コース： 病原体に関する基盤知識必要者
医療機器、衛生器材、機器・実験室メンテナンス、建築、スポーツ施設などの従事者
2. 実践コースA： 受動的に病原体に接触する可能性のある人
食品施設、介護施設、歯科施設、関係行政機関などの従事者
3. 実践コースB： 能動的に病原体を取扱う人
大学等のバイオセーフティ実験施設、保健所・検疫所・医療関係施設の従事者
4. 特別コース： 特別事案(危機管理)従事者
病原体運搬、薬剤耐性菌対策、輸入感染症対策等の従事者

【実践コース B の概要】

病原体を能動的に取り扱う方、あるいは病原体取扱い施設の管理監督にかかわる方々を主な対象として以下のテーマに関して、高レベルの会場において第一線の講師による座学と実習が行われます。また、受講者には、講演テキストと副読本を事前に配布し、予めお目通しのうえ講習会に参加していただきます。

【座学】

- ・感染症概論
- ・ウイルスや細菌の感染とその制御法
- ・医薬品製造における安全対策と GMP
- ・遺伝子組み換え生物等の利用と安全対策
- ・薬剤耐性菌対策や食の安全対策と One Health

【特別講演】 講師は厚生労働省などより招請

- ・生物安全に関わる今知っておくべき新知識・情報

【実習】

- ・個人防護具の着脱
- ・PCR 等遺伝子関連検査と安全対策
- ・生物安全キャビネットの使用と管理
- ・病原体の輸送



テキスト: A4 版カラー全百数十頁

生物安全技能士の認定及び更新制度について

講習会を受講し、資格認定試験に合格した方の社会的信用を保証するために生物安全技能士という資格認定制度を設けています。認定には別途認定料(2万円)が必要です。生物安全技能士の有効期間は3年で、継続するためには更新講習の受講が必要です。

生物安全技能士には以下の特典があります。

1. 当講習会の主催母体による学会・講演会等への優待や定期刊行物の配布

2. 生物安全や感染症対策に関わる「信頼できる情報」の提供など

さまざまな情報が飛び交う中で、生物安全に関わる知識・能力を継続的に維持・更新していくための提供です。

【情報提供の例(2020～2021)】

- ・三瀬勝利：“ばい菌学エピソード11”(かびと生活)
- ・新型コロナ対策に関する科学者の共同声明文 代表世話人:本堂 毅(東北大学大学院理学研究科)
- ・厚生労働省：新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針 改定版
- ・山内一也：“ウイルスの存在する意味”(学会会報)
- ・松浦善治：大阪大学感染症総合教育研究拠点長 インタビュー記事(医療維新)】
- ・花木秀明：新型コロナウイルスの特性とイベルメクチンの効果(講演動画)
- ・機能水研究振興財団：機能水ニュースレター (<http://www.fwf.or.jp/>)

3. 生物安全に関する疑問に対するコンサルテーション

生物安全技能士には、受講コースに応じて以下の認定証(B5 サイズ)と認定証カード(名刺サイズ)が授与されます。



生物安全実践講習会「運営・専門委員会委員」

吉川敏一 (公財)レイ・パストゥール医学研究センター理事長	佐藤 勉 東海大学医学部教授
堀田国元 (一財)機能水研究振興財団理事長	関口勝美 (株)アルバーネット・高度BSL施設管理技術指導者
本間 茂 (一財)機能水研究振興財団常務理事	辻井栄作 京都大学 研究推進部 研究規範マネジメント室
岩澤篤郎 東京医療保健大学教授	中野隆史 大阪医科薬科大学医学部教授
鹿住祐子 国立感染症研究所	花木秀明 北里大学大村記念研究所感染症制御研究センター長
菊地憲次 (公財)レイ・パストゥール医学研究センター主席研究員	藤原功一 (公財)レイ・パストゥール医学研究センター研究員
木ノ本雅通 元国立感染症研究所 細菌・血液製剤部主任研究官	三瀬勝利 国立医薬品食品衛生研究所 名誉所員
才原康弘 (公財)レイ・パストゥール医学研究センター研究員	八木澤守正 北里大学大村智記念研究所 客員教授
佐々木次雄 元国立感染症研究所 細菌第二部長	吉澤重克 元千葉県家畜衛生研究所主幹

生物安全実践講習会「第1回実践コースB」 募集要項

共催：医療研修施設【ニプロ iMEP】

- 日時： 令和4(2022)年6月15日(水)～6月16日(木)
- 会場： 医療研修施設【ニプロ iMEP】 滋賀県草津市野路町3023
アクセス： JRびわ湖線 南草津駅(JR 京都から新快速 17分)より徒歩3分
- 受講料： 1名 35,000円 受講者全員に修了証を授与致します。
- 資格認定： 資格試験合格者には“生物安全技能士”認定の機会が与えられます(認定料 20,000円)。
- 受講人数： 20～30名 ※すでに募集は締め切っております。
- 事務局： 生物安全実践講習会運営事務局 担当:清水雅俊(shimizu@fwf.or.jp)

プログラム

(※一部変更される可能性がありますことをご確認ください)

【第一日】6月15日(水) 9:30 開講～17:00 終了 (予定)

【午前】 ガイダンス： 堀田国元 (一般財団法人機能水研究振興財団理事長)

実技： マスク装着・手指消毒(講義と実習)： 興研株式会社・サラヤ株式会社

座学1： 感染制御概論 藤田直久先生 (京都府保健環境研究所長)

座学2： ウイルス感染とその制御法 松浦善治先生 (大阪大学感染症総合教育研究拠点拠点長)

【午後】

特別講演： 感染症対策の実際～**感染症法制を通じた対策**～

野田博之先生 (内閣官房 新型コロナウイルス感染症対策推進室企画官)

座学3： 医薬品製造における安全対策とGMP 佐々木次雄先生 (元国立感染症研究所細菌第二部室長)

座学4： 遺伝子組換え生物等の利用と安全対策 辻井栄作先生 (京都大学研究推進部 研究規範マネジメント室)

座学5： One Health からみた動物および環境由来薬剤耐性菌の現状と課題

田村 豊先生 (酪農学園大学名誉教授)

座学6： ワンヘルスと食のリスクマネジメント 本間 茂先生 (一般財団法人機能水研究振興財団常務理事)

【第二日】6月16日(木) 9:00 開講～17:00 終了 (予定)

【午前】

座学7： 遺伝子関連検査と安全対策 林邦彦先生 ((株)池田理化/PCR感染症検査研究会)

実習1： 病原体の梱包と輸送の安全対策(講義と実習)

伊木繁雄先生 (国立感染症研究所安全実験管理部主任研究官)

鹿住祐子先生 (国立感染症研究所)

【午後】

実習2： 安全キャビネット・クリーンベンチ・個人防護具の取扱い(講義と実習)

吉澤重克先生 (元千葉県家畜衛生研究所主幹)

関口勝美先生 (株)アルバーネット/BSL施設管理指導者)

木ノ本雅通先生 (元国立感染症研究所主任研究官)

アゼアス株式会社

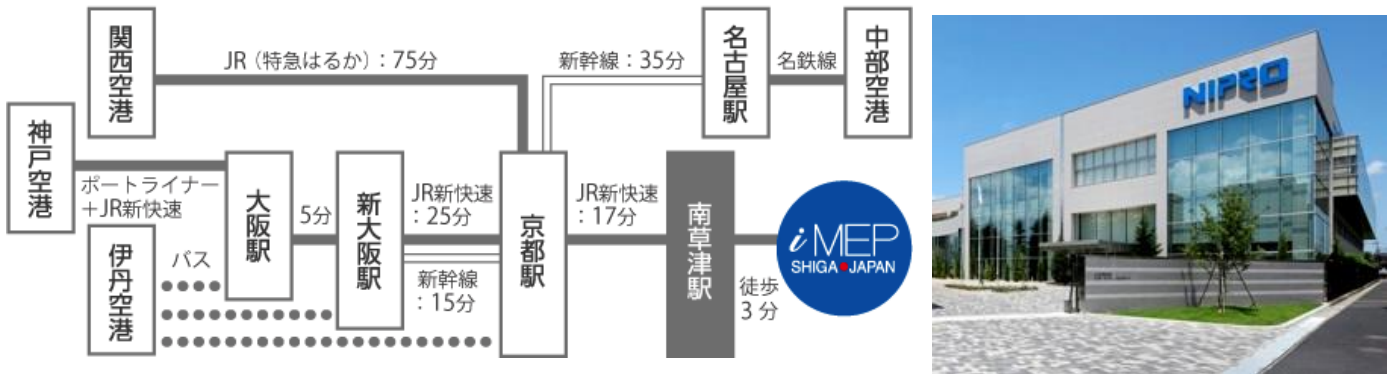
総合討論： 司会 木ノ本雅通・吉澤重克(生物安全実践講習会専門委員会委員)

理解度確認 兼 認定試験

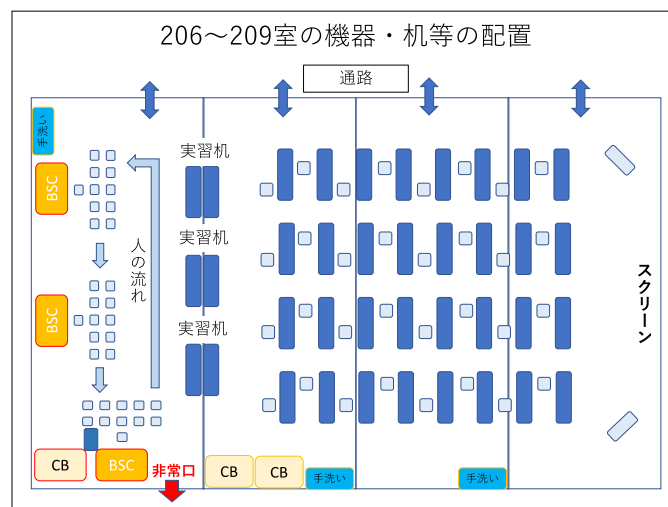
講習会場の紹介

講習施設: 医療研修施設【ニプロ iMEP】 滋賀県草津市野路町3023

アクセス: JR 京都より新快速(琵琶湖線)で17分の南草津駅から徒歩3分



講習会場: 【iMEP】 2F 206~209 室



4 部屋 (206~209 室) の仕切りを取り払った広いスペースに上図のように右手スクリーンに向かって座学用の机を並べ、ソーシャルディスタンスを確保するために各机に 1 座席をジグザグに配置。実習は、左手後方に生物安全キャビネット等実習に必要な器機や資材を配置して行います。座学・実習ともに可能な限りの感染防止対策をとった上で行います。